

三鷹市はチリ共和国の ホストタウンです



事前キャンプの協定締結署名式の様子（左：フリオ・フィオル駐日チリ大使、右：河村孝三鷹市長）

ホストタウンになった経緯

チリ共和国には、日本を含む世界22の国と地域が協力して運用している世界最大級の電波望遠鏡「アルマ望遠鏡」があり三鷹市大沢にある国立天文台は、同望遠鏡が建設計画段階にあった1990年代初頭から、チリと協力してきたつながりがあります。

市では、こうした国立天文台とのご縁を契機に、令和2年3月18日にチリ共和国のパラリンピック委員会と東京2020大会に向けた事前キャンプに関する協定を締結し、さらなるチリ共和国との交流と共生社会の実現を目指すため、同年10月30日にホストタウンに登録しました。

三鷹市へのごあいさつ（事前キャンプの協定を締結して）

リカルド・エリサルデ チリパラリンピック委員長



我々にとって三鷹市との協定書締結は非常に嬉しいです。東京2020大会に向けたチリ代表選手の準備のためだけではなく、日本の、三鷹市の方々との友情が強まる機会をいただいたと思っています。

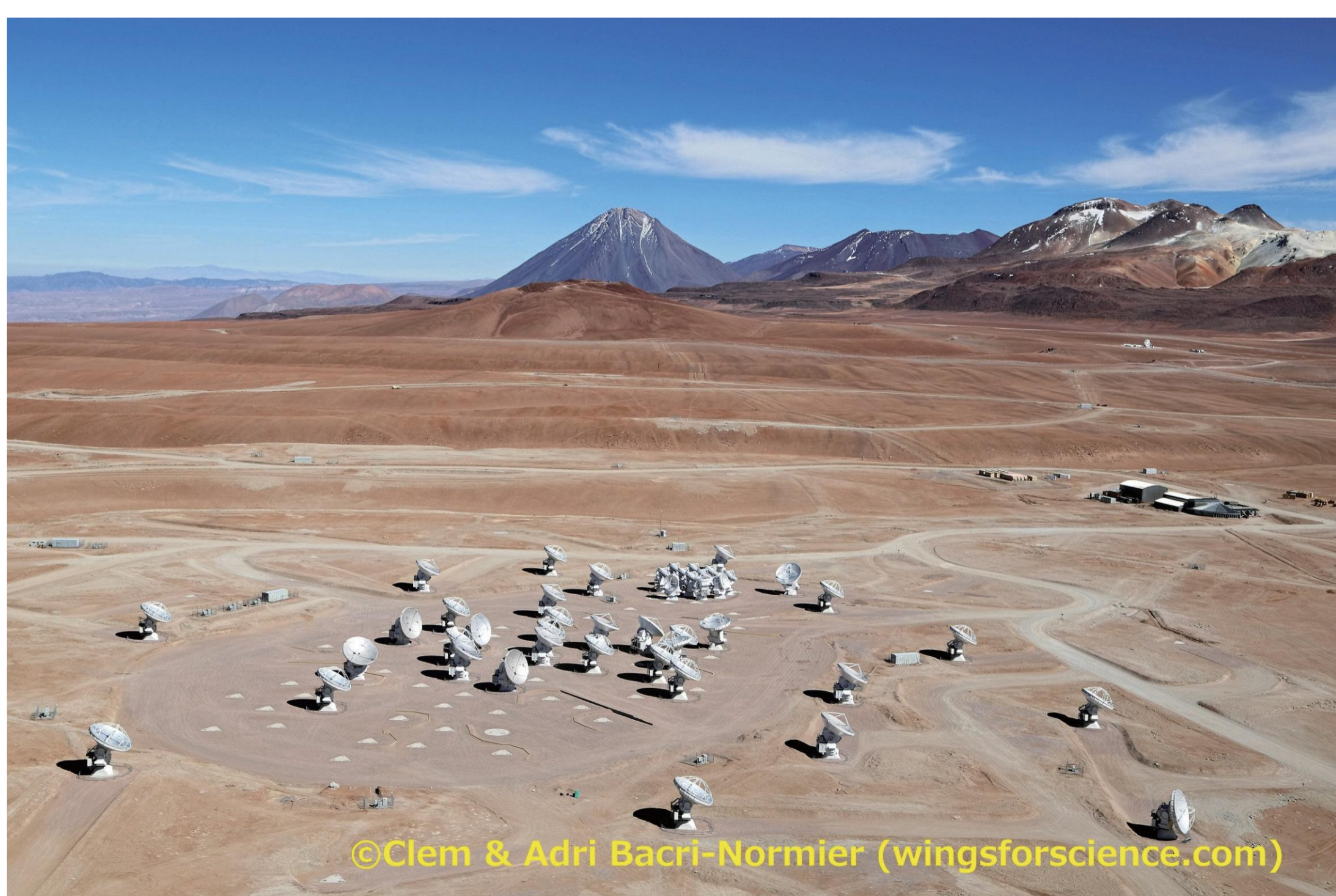
我々の東京2020大会へ向けたレースにおいて、三鷹市は大会前の最終コーナーであるので、重要なポイントになります。

フリオ・フィオル 駐日チリ大使



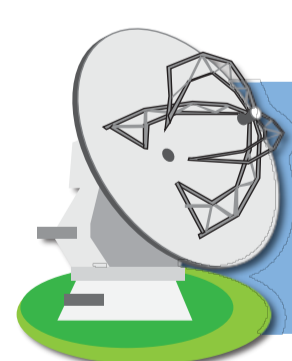
三鷹市と三鷹市長によるチリのパラスポーツ選手へのおもてなしに感謝申し上げます。選手達は三鷹市民の皆様との交流を通じて、スポーツや文化の素晴らしい行事に参加する機会を持つことでしょう。

私は今後とも新しいプロジェクトにおいて共に協力して行く中で、この協定がチリと日本の特に三鷹市との友好関係の推進に貢献することを確信しています。



©Clem & Adri Bacri-Normier (wingsforscience.com)

チリのアタカマ高地にあるアルマ望遠鏡



宇宙の謎に挑む、アルマ望遠鏡

南米チリの標高5,000mの高地に建設され、2011年に科学観測を開始したアルマ望遠鏡は、星や惑星の材料となる塵やガス、生命の材料になるかもしれない物質が放つかすかな電波を、「視力6,000」に相当する圧倒的な性能でとらえることができます。

「惑星誕生のメカニズムや地球外生命の可能性を明らかにし、私たちのルーツを宇宙にたどること」がアルマ望遠鏡の使命です。



【東京2020大会後も継続した交流を実現します】

ホストタウン登録を契機にチリ共和国との多様な交流事業に取り組むことで、大会後も継続する末長い交流と、障がいのある方も含めた全ての市民が、相互に人格と個性、文化等を尊重し支え合える共生社会の実現を目指します。